

縄文文化【縄文時代】

縄文時代（紀元前 14,000～350 年）の最初の千年間は、遊動的な生活様式を特徴としていた。先縄文時代の人々が暮らすコミュニティの規模は多様で、季節の変化に伴い移動を繰り返していた。土器の開発と弓矢の発明という 2 つの大きな技術的進歩が起こったのは、この時代のことである。土器を使うことで、先縄文時代の人々は料理が可能になり、さまざまな食べ物を食べられるようになった。また、弓矢を使うことでウサギなどの獲物をより効率よく捕まえられるようになった。この 2 つの新しい技術の発見が縄文時代の始まりを表す。

約 1 万 1500 年前に氷河期が終わると、気候が安定して地球の気温が上昇し始めた。季節の振れ幅が小さくなったことから、1 年をとおして 1 か所に定住することが可能となった。定期的に移住する必要がなくなったため、やがて人々は家族と過ごせるようになり、何世代かで 1 つの住居で一緒に暮らすようになった。遊動生活から竪穴式住居での狩猟採集生活へ変化したことで共同生活文化が生まれ、これにより日本列島で最初となる真の社会が徐々に発達していった。縄文時代の数々の遺物からは、交易、儀式、さらには芸術まで充実した文化があった様子がわかる。

「縄目文様」を意味する縄文という名前は、この時代の深鉢に縄の文様が押し付けられていたことに由来する。

土器の使用によって縄文人の食生活は大幅に広がり、それが後に人口増加へと繋がっていった。気候の変化がドングリや栗、クルミの木の成長を広範囲で加速させ、縄文遺跡から発掘された石臼や、この時代の土器の標本の内側に付いている炭化物の跡から、縄文人はその堅果をすりつぶして調理していたようである。この食生活は、他の肉や魚、堅果類、小果実類、根茎類といった幅広い種類の食べ物で補われていたと考えられる。十日町時代中期である。

縄文時代は、稲作が到来し、大陸からもたらされた農耕生活様式が幅広く発達したことによって終焉した。